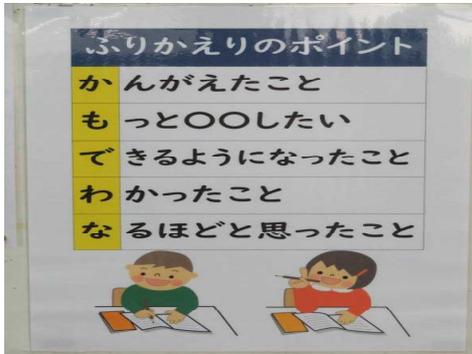


学習者主体の授業づくりに向けた「振り返り」の事例

学校名	南九州市立高田小学校	児童生徒数	41人
-----	------------	-------	-----

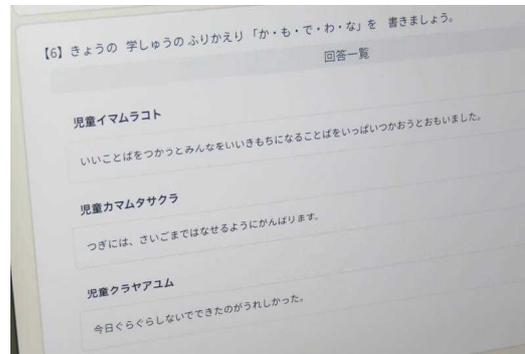
振り返りをしている子供の様子や、振り返りの視点、振り返りの記述等

資料1



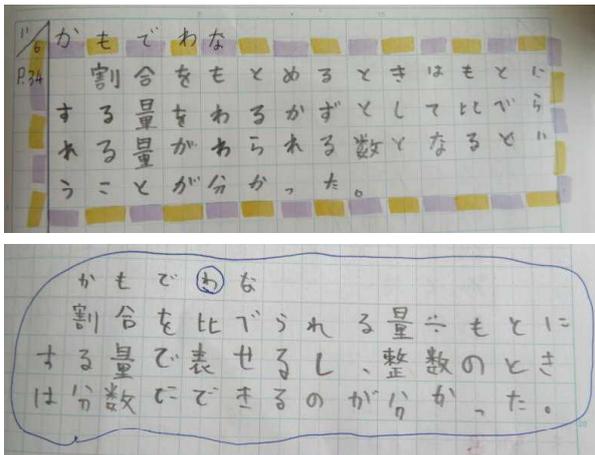
○ 教室掲示用

資料2



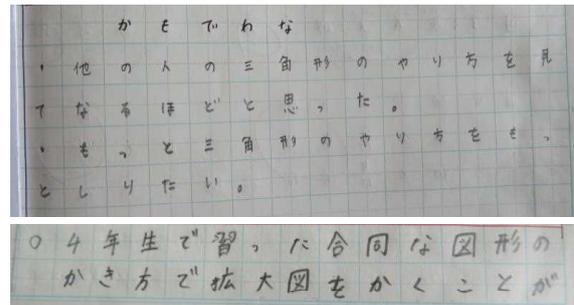
○ 今後の自分の行動や次時への意気込み、授業態度等について書いています。

資料3



○ 「かもでわな」の「わ」で振り返っています。割合を公式で求められることや、割合を分数で表せることを確認しています。

資料4



○ 上の児童は、ひとり調べでは解決できなかったことが、他の人の方法で拡大図をかけることに気づき、今後への意欲をもっています。
○ 下の児童は、4年生で学習した合同な図形のかき方を活用すると、拡大図がかけられることを確認できています。

取組についての概要 (成果)

通年を通した全校での実践 資料1

令和4年度から、資料1の視点を児童に示し、授業の終末において振り返りをさせている。毎時間ではないが、継続して取り組んでいるため、スムーズに言語化できるようになっている。また、次時の学習活動への見通しや意欲付けにも効果を上げている。

6月26日(月) 第2学年 国語科「うれしいことば」 資料2

本時の振り返りは、タブレットを活用して行った。アンケートには、記述式の項目も設けた。2年生であっても、多くの児童が記述による振り返りができている。

10月30日(月) 第5学年 算数科「割合(1)」 資料3

もとにする量を1として、比べられる量はいくつにあたるか、比べられる量ともとにする量が整数のときは、分数でも表せるといった振り返りがなされ、割合の定義や、その求め方に気づくことができていた。

11月6日(月) 第6学年 算数科「拡大図と縮図」 資料4

本時では、当初、「合同な三角形のかき方」が使えることになかなか気付けなかったが、辺の長さや角の大きさに着目させることで、解決へと向かっていった。振り返りでは、他にも対応する辺の長さの比や、対応する角の大きさを等しくすることを意識したものもあった。